

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

東京の産業を支えることができる 専門高校への改革を目指して

東京都教育庁 指導部 高校教育改革担当課長

大 林 誠



農業や工業、商業など職業教育に係る専門高校は、これまで多くの有為な人材を産業界に輩出し、我が国の経済発展を支える役割を担ってきました。こうした専門高校は、専門的な知識や技術・技能の習得に加え、職業人として必要な勤労観・職業観を身に付けることができる学校として高い評価を受けてきました。

しかし今、専門高校生を巡る雇用環境は大きな節目を迎えています。グローバル化の急速な進展や産業構造の変化等に伴い、産業界が求める人材も時代とともに多様化・高度化しています。さらに、少子高齢化が進行する今日にあって、東京都でも地域産業を支える技術の継承や専門的職業人の確保が懸案となっています。

こうした状況下で、専門高校の果たすべき役割は極めて重要です。各専門高校は、社会のニーズを踏まえた人材の育成を目指し、専門分野に関わる知識や技術・技能の習得を確実に図るとともに、主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、他者と協働する姿勢など21世紀の社会で活躍するために必要な資質を養っていく必要があります。

これまでも専門高校は、社会の変化や期待に十分に答えるべく、専門性の高い科目を設置するなど特色ある教育課程への改善を図ってきましたが、中学生からは教育内容が分かりにくく映り、志望倍率の低迷につながるなど、専門高校の大きな課題となっています。

都教育委員会は平成25年12月に、外部有識者等を含む「都立専門高校改編基本構想検討委員

会」を設置し、今後の専門高校の在り方に関して検討を進めてきました。そして、昨年8月にそれまでの検討結果を公表するとともに、平成27年6月には今後の専門高校の在り方や、各学科の学習内容の改善に係る方向性を報告書にまとめたところです。

個別の学科に示された内容の一例として、農業科では産業現場での実習やインターンシップの充実、資格取得や各種競技会等の成果を顕彰するアグリマイスター制度の導入など。工業科では産業界からの評価が高いデュアルシステムの拡大、ものづくりへの興味・関心を高める学校設定科目の開発・導入など。商業科では東京の産業やビジネス活動について調査・研究する学校設定科目の開発・導入、外部人材の活用や企業と連携を推進するためのコンソーシアムの設立など、様々な内容について提言をいただきました。

こうした提言を受け、都教育委員会は本年11月26日に、都立高校改革推進計画の次の実施計画（平成28年度から30年度までの計画期間）策定に向けた骨子を公表しました。今年度中には当該実施計画を決定し、企業や生徒等のニーズに応じた学科の改編や、教育内容と指導体制の見直し・改善を図り、これまで以上に魅力ある専門高校づくりを進めてまいります。

専門高校の改革には、東京都産業教育振興会の会員をはじめ産業界の方々との連携が不可欠です。これまで以上に皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。



〈実践報告〉

社会を知り、学んだ知識・技能を活用する 教育活動の展開

東京都立芝商業高等学校

校長 丸山 正二郎

1 はじめに

本校は創立91周年を迎えるビジネスと観光の拠点、J R浜松町駅徒歩5分に位置する商業高校です。資格取得や進路実績は勿論、ビジネス社会を知り、商業で学んだ知識・技能を実社会で活用する教育活動の実践を推進しています。

2 ビジネス社会を知る

生徒は高卒であれ大卒であれ、その先の実社会で活躍することを目指します。その具体的目標を持つためには、まずは社会を知る必要があります。キャリア教育や進路指導は年間計画により全都立高校で取り組んでいますが、ここでは本校の全員インターンシップを紹介します。

生徒自身が社会に出るとき何ができるか、何をしたいか等を考えるきっかけとするため、毎年12月に二日間、1学年全員と2学年の高卒で就職希望者の合計300名余が一斉に、国際ロータリークラブ2750地区の協力を得て100社以上でインターンシップを実施し、製造・販売のみならず神社、ホテル、証券会社ほか簿記の学習を前提とした会計や法律事務所等での実務体験を行っています。



3 学んだ知識・技能を使う

(1) 模擬株式会社“芝翔”

商業で学ぶ簿記、情報処理、マーケティング、商品開発等を総合的に体験することと地域活性化のために全国の高校では商品開発(デザイン等含む)や販売活動が盛んに行われており、本校では地の利を生かした全国高校生開

発商品アンテナショップを試行しています。地域や商品特性を調べ、どう販売するかを計画し実践することで、仕入交渉、帳簿記録、販売戦略、販売、決算、マナー等を体験的に学び、この継続のための常設店舗設置をめざしています。



(2) 連携中学校でのマナー講習

本校は北区立飛鳥中学校と同十条富士見中学校との連携型中高一貫教育校に指定されています。この連携活動の中で、芝商生(進路委員)6~10名が中学校でマナー講習を実施しており、本校の生活や進路活動、商業の学習等身に付けたマナーを、中学校に出向いて各ホームルームで実践指導し、中学生から好評を得ています。



他に竹芝地区まちづくり協議会や文化放送、福井県池田町との連携活動も積極的に進めているところです。

〈実践報告〉

第13回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

中央区立銀座中学校

校長 加藤 譲 司



創造ものづくりフェア in TOKYOは、11月14日（土）に中央区立銀座中学校、11月21日（土）に女子栄養大学（食部門）の2会場に分けて開催しました。今年の参加者は、見学の保護者を含めると両会場併せて600名を超え、関東・全国大会出場を目指して会場は熱気に包まれていました。その内容と結果は、以下のとおりです。

(1) 中学生創造アイデアロボットコンテスト

＜基礎部門＞

- 1位 豊島区立千登世橋中学校 2代目モーモー君
- 2位 豊島区立千登世橋中学校 元祖モーモー君
- 3位 豊島区立千登世橋中学校 ファースト

＜活用部門＞

- 1位 豊島区立千登世橋中学校 灰色ロボット
- 2位 豊島区立千登世橋中学校 ヘッドライト
- 3位 豊島区立千登世橋中学校 双曲線W

＜応用部門＞

- 1位 渋谷区立広尾中学校 田村川ラボ
- 2位 渋谷区立広尾中学校 S I
- 3位 渋谷区立広尾中学校 リベンジ

(2) 木工チャレンジコンテスト

- 1位 大田区立大森第二中学校 廣瀬 稜
- 2位 大田区立大森第二中学校 中村優太
- 3位 足立区立第六中学校 吉岡海人

(3) 豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール

- 1位 葛飾区立常盤中学校 中根佑月
- 2位 江戸川区立篠崎中学校 榊谷夏希
- 3位 練馬区立田柄中学校 栃木有彩

(4) あなたのためのおべんとうコンクール

- 1位 新宿区立四谷中学校 いちご大福
- 2位 板橋区立板橋第一中学校 板橋一中
- 3位 江戸川区立小松川第三中学校
はんぺん三兄弟

(5) 生徒作品コンクール

＜技術科 授業内部門＞

- 1位 奥多摩町立奥多摩中学校 加藤玲那
- 2位 中央区立日本橋中学校 森安葉太郎
- 3位 板橋区立高島第一中学校 尾崎豪士

＜技術科 自主制作作品部門＞

- 1位 練馬区立開進第三中学校 田頭尚大
- 2位 青梅市立第三中学校 本橋亜妃
- 3位 武蔵野市立第三中学校 三澤遼治

＜家庭科 授業内部門＞

- 1位 足立区立六月中学校 渡邊栞菜
- 2位 中央区立銀座中学区 柴田涼右
- 3位 大田区立貝塚中学校 小倉直人

＜家庭科 自主制作作品部門＞

- 1位 東京学芸大学附属世田谷中学校
伊藤奈南子
- 2位 練馬区立開進第三中学校 大矢萌香
- 3位 北区立滝野川紅葉中学校 手芸部

(6) 東京都中学校ロボットコンテスト※

- 1位 江戸川区立鹿骨中学校 Salt
- 2位 豊島区立千登世橋中学校
まっしろしろすけ MK-IV
- 3位 新宿区立新宿中学校 紙

※(6)以外の部門は東京都地区予選を兼ねる。

「世界大会に出場して得られたこと」

東京都立多摩科学技術高等学校

科学技術科2年 松井 勇樹

私は現在、東京都立多摩科学技術高校で東京都小金井市を流れる野川流域の、「ハケ」という地形を形成する土壌の性質について研究をしています。多摩科学技術高校は東京都に2つある科学技術科高校の1つで、生徒はBT (Bio Technology)、ET (Eco Technology)、IT (Information Technology)、NT (Nano Technology)の中から自分の学びたい領域を選び、自分の将来のために日々勉強や研究活動を行っています。私はET領域で環境問題とその対策技術などについて学びながら研究活動に勤しんでいます。私が行っている研究は、この学校が開校した当初から行われている研究です。入学当初は地質に、全く興味のなかった私ですが、先輩方の熱心な研究姿を見ている内に、みるみるこの研究に魅了されていき、「この研究に自分も関わりたい!」という強い思いから研究を引き継ぎ、今では研究グループの中心となって研究に没頭している毎日です。

さて、この夏、私たちの研究グループはこれまでの先輩方と私たちの研究成果が認められ、日本ストックホルム青少年水大賞を受賞し、世界大会であるSJWP (Stockholm Junior Water Prize) への参加権を得ることができました。受賞後、いろいろな先生方に助けて頂きながら行ったSJWPへの英語論文作成の毎日、今までとは比べ物にならないほど大変なものでした。そして同時に、自分たちの未熟さを十分すぎるほどに感じた日々でもありました。このとき経験することのできた様々な出来事や、初めて知った知識を決して無駄にしないようにしようと思いました。論文提出から約1ヶ月後に、いよいよスウェーデンのストックホルムに出発しました。スウェーデンでの滞在日数は十日ほどでしたが、振り返ってみると本当に濃密な時間で、そしてあっという間の日々でした。

ストックホルムで、私たち生徒はファイナリストとして先生方とは別のホテルで、ほかの国の方たちと生活を共にしました。初めは英語のみでコミュニケーションをとることに苦戦しましたが、それぞれの国の文化の話などを通してだんだんと仲を深めていきました。英語での研究発表は始めは戸惑うことも多かったけれども、自分の研究を世界の人たちに伝えられると

いうことに感無量でした。

授賞式の前に今まで指導をしてくださった先生方が、「頑張った」「成長した」と褒めてくださったときは、自分がやってきたことは間違っていなかったと言われているようで、嬉しさと同時にこの場所に自分を導いてくださった人たち全員に感謝の気持ちを述べたいと心の底から思いました。

私はSJWPで普通ならば絶対に経験できないような体験を数え切れないほどさせていただきました。だから、私は先生方の思いに答えられるように、そしてここで学んだことを決して無駄にしないように、これで満足することなく、これからもひたすらに研究に励み、そして多くのことを学んで行きたいです。



SJWPにて審査員よりインタビューを受けています。英語でやりとりをしたので大変でした。



29ヶ国の代表者たちの集合写真

同年代なのですぐに打ち解け帰国後もメール交換等が続いています。

「伝統野菜と食文化に触れて」

北 区 立 稲 付 中 学 校

2年 藤 巻 り え る

私の在学している稲付中学校では、二年生になると技術・家庭科の時間に野菜の栽培を行います。現在は「滝野川かぶ」の栽培を行っています。

私は「滝野川かぶ」の栽培を行うにあたり、江戸東京野菜というものを知りました。江戸東京野菜とは、江戸時代から東京周辺で生産されていた伝統野菜のことです。

私がこの江戸東京野菜に興味を持ったのは中学一年生の時です。学校のサタデースクール（土曜授業）に、江戸東京・伝統野菜研究会代表を務められている大竹道茂さんをお招きし、江戸東京野菜の話を伺ったのがきっかけでした。それまで知識がなかった私はこの機会ですごくさんのことを学ぶことができました。

まず、一つ目は種類です。現在は約30品目が江戸東京野菜として認定されており、その中には「練馬大根」、「滝野川ごぼう」などがあります。現在私たちが栽培している「滝野川かぶ」も、江戸東京野菜の一つです。現在の北区滝野川付近で栽培されていたことから、「滝野川かぶ」と名付けられたそうです。他にも「品川かぶ」「金町小かぶ」というものがあり、かぶにも三種類あります。

そして、二つ目に学んだことは歴史です。私は江戸の文化と野菜がどう関係しているのかを知りませんでしたが、今回その繋がりを知ることができました。江戸から始まり現在の平成に至るまで、庶民の食生活を支えてきた江戸東京野菜。そして、東京という大都市で栽培され続けている素晴らしい野菜。江戸時代には冷蔵庫がなかったため、主に漬物として食されていましたが、現代の私たちは学校の給食で様々な方法で調理されたものを食べることができます。稲付中学校の給食でそれらの伝統野菜が出てきたとき、「江戸時代の人も食べていたんだ」と、不思議な気持ちになります。

次に、三つ目は江戸東京野菜の魅力です。形が大きかったり、曲がっていたりの理由で他の野菜に比べ市場に出回ることが少ないそうです

が、その分とても価値があります。

東京で育てられた野菜を、東京に住んでいる私たちが給食などで消費するということは鮮度の良さを意味します。今では、江戸東京野菜を提供するレストランもあると聞きます。このように鮮度の良い野菜を食べることができるのは幸せなことです。これこそまさに、「地産地消」だと私は思います。

今回、江戸東京野菜について学ぶことが出来て、本当に良かったです。



滝野川かぶ

最後に、私たちが稲付中学校で育てている「滝野川かぶ」がどのように成長していくか、楽しみです。大切に育てていきたいと思います。



東京商工会議所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル
会頭 三村 明夫
TEL: 03-3283-7961 FAX: 03-3283-7589

東京商工会議所は、東京23区に事業所を持つ法人、個人、団体など、約78,000の会員からなる地域総合経済団体です。1878（明治11）年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、1. 経営支援活動 2. 政策提言活動 3. 地域振興活動の3つを柱として活動しています。

会員は、業種別に設置された10の「部会」と、23区に設置された「支部」にそれぞれ所属し、さまざまな形で情報交換や人的交流を行っています。支部では、会員に対するより身近なサービスの提供や地域に密着した活動を通じて、地場産業の振興育成や、企業間連携の促進、地域ブランドの向上などに取り組んでいます。

会員は選挙などを通じて議員企業(150社)を選出し、議員企業は会員の代表として商工会議所の事業計画や予算・決算などの重要事項を審議・決議します。また、「税制」や「中小企

業」、「社会保障」など、課題別に設置された「委員会」では、会員企業の意見等をもとに提言や要望をとりまとめ、商工会議所の主たる議決機関である「常議員会」の決議を経て、その実現を国や東京都などに働きかけるなど、中小企業の経営環境改善に向けた取り組みを行っています。

<活動の一例>

地元経営者による出張授業（昨年実施、墨田支部）：会員企業の経営者が学生らに自身の経験談を交え、働くことの意義や地域社会への貢献などについて熱心に語りました。



第一科学株式会社

〒113-0021 東京都文京区本駒込五丁目 28 番 5 号
代表取締役社長 山元 俊計
TEL: 03-3823-7261 (代表) FAX: 03-3822-1580

弊社は、文京区にて1959年創業以来50年以上に渡り、理化学機器、教育機器、実験器具、施設備品、教育教具、各種消耗品、その他、多岐分野の商品を取り扱う商社として、官公庁、各省庁、国公立大学、都立高等学校、国公立中学・高等学校、専門学校、研究機関、特別支援学校等への納入業者として、実績と経験を積んで参りました。

また、取引先をはじめ多くの皆様から格別なお引き立てを賜り、深く感謝申し上げます。これからも弊社は、お客様の視点に立ち、ご要望には、より細やかに、迅速、正確な対応に心掛けたいと思っております。未来に向かって社員一丸となり、日々前進をモットーに、信頼と安心をいただける企業を目指し、より一層の専心努力を重ねて参ります。

さて、今年は、生理学・医学賞と物理学賞で日本人学者がノーベル賞を受賞されるという喜ばしい話題がありました。過去にも多くの立派な日本人学者を輩出し、その業績が国内外に高

く評価されている事を誇らしく思います。同時に、将来を担う皆様に、科学全般の楽しさに興味を持っていただける環境作りの必要性を感じました。

弊社として、微力を承知で環境作りに取り組んで参る所存でございます。最後になりますが、学問に興味を持つことは、学ぶ動機の最初の一步、やがて大きな疑問を解決する原動力になると思います。

将来の科学技術立国を担う皆様が、広く社会に貢献し、また、人類の生活を豊かにする『ものづくり』を通して、世界にはばたく事を願っています。



新 会 員 企 業 の 紹 介

ベストワールド株式会社



〒101-0047 東京都千代田区内神田1-7-4
TEL: 03-3295-4111 FAX: 03-3295-4118

当社は昭和44年創業以来、40年以上旅行業を営んでまいりました。

顧みますと、無事今日を迎えることが出来ましたのは、社員一同の弛まぬ刻苦精励によることはもとよりですが、何と申しまして創業以来、数限りない多くの方々から絶大なるご支援とご愛顧を賜り、今日に至っております。

おかげさまで創業以来、借入金は皆無で、常に好成績を維持して参り、各方面から、当業界の中でも、特に優れた健全な経営であると賛辞を賜っております。

旅行業に携わる私共としまして多くの方々と一緒に、旅のお供が出来ましたことは、何物にも代え難い感動であります。

社訓は下記三条項であります、これは創業時の精神であります。

● 世のお役に立つ

● 顧客の喜びをわが喜びとする

● 顧客との出会いを尊び、ご縁を大切にする

昨今の厳しい環境と予測も困難な変化の渦中に在っては、創業の精神を想起し、向上発展を志すことこそ、最も肝要であると確信いたしております。

これを機に、心を一新して、社業発展に邁進の覚悟であります。

【主な業務内容】

1. 海外旅行業務

- 海外団体旅行の企画、主催、諸手配、添乗
- ホームステイによる英語研修、海外留学の企画
- 海外業界視察、研修、親善旅行等の企画、主催、並びに業界訪問の予約業務等
- 修学旅行・国内旅行
- ジャパンフェスティバル

2. IATA公認代理店業務

- IATA加盟の航空各社の航空機の予約と発券

3. 海外オペレーター業務

4. 旅行附随業務

- 旅行傷害保険代理店
- 海外旅行用品の販売
- 海外イベント、フェスティバル、国際見本市等の情報収集並びに手配

5. 国内旅行

- 国内旅行全般の斡旋並びに手配

6. 輸入販売業務



平成 27 年度 総会・講演会の報告

平成27年度総会を、6月26日（金）午後2時より千駄ヶ谷の全商会館3階で開催しました。

来賓に、公益財団法人産業教育振興中央会専務理事 富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会 会長 小山利一様、東京都中学校長会 会長 榎本智司様をお迎えし、47名の御出席をいただきました。

開会にあたり、西澤宏繁会長及び東京都教育委員会より挨拶があり、その後、来賓の方々より御挨拶をいただきました。議事においては、昨年度の事業報告、決算書、そして、本年度の事業計画と予算書が承認されました。また、都教育庁役員の職名変更に伴う会則の一部改正が行われました。

総会終了後、引き続き講演会が開催されました。出席者数は49名で、株式会社開倫塾取締役社長 林 明夫氏を講師として、「これからの社会で求められる能力とは—企業が産業教育に期待すること—」という演題で行われました。

講演内容は、これからの社会を見据えて企業や社会が産業教育に期待すること、これから

の社会で求められる能力とは何かについてであり、御参加の先生方による質疑応答も活発に行われました。

本年度の役員を紹介いたします。

会 長	西 澤 宏 繁
副 会 長	金 子 昌 男
同	小 林 治 彦
同	高 石 公 一
理 事 長	中 井 敬 三
常任理事	早 川 剛 生
同	山 本 謙 治



西澤宏繁会長の挨拶



林 明夫氏による講演会

平成 27 年度「作文コンクール」について

本年度の東京都産業教育振興会主催「作文コンクール」は 9 月 11 日に申し込みを締め切り、選考委員による一次選考、二次選考を経て、下記のとおり、入選者が決定いたしました。

本年度は、中学校からの応募については例年と比べ減少が見られました。

【平成 27 年度 応募状況・入選状況一覧】

	応募校数	応募作品数	入選数	最優秀賞	優秀賞	佳 作
中 学 校 の 部	18 (28)	82 (134)	13 (19)	1 (1)	2 (3)	10 (15)
高等学校の部	15 (19)	93 (106)	14 (16)	1 (1)	3 (2)	10 (13)
専修学校の部	5 (4)	21 (23)	3 (5)	0 (0)	1 (1)	2 (4)
総 数	38 (51)	196 (263)	30 (40)	2 (2)	6 (6)	22 (32)

数字は本年度のもの、() は昨年度の数です。

平成 27 年度 産学懇談会について



産学懇談会は、産業・行政・教育界の会員が一堂に会し、専門高等学校等の産業教育の現場を見学することにより、産業教育に対する理解を深めることを目的としています。

今年度は 11 月 6 日(金)に都立六郷工科高等学校で開催し、校内の施設見学後に懇談会を行いました。

本会役員、会員等 23 名が参加し、これからの産業教育について、またデュアルシステム等について活発な意見交換が行われ有意義な会となりました。

平成 27 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰式

11 月 17 日(火)15 時より都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 25 にて、教育功労者表彰を行いました。本年度は高等学校 22 名、高等専門学校 2 名、中学校 9 名、専修学校 2 名の合計 35 名の方々が表彰されました。



事務局より

○平成 27 年度会報「東京の産業と教育」第 149 号をお届けいたします。発行に際して御協力頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。

○東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

FAX 03-5388-1727

印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています
印刷用の紙にリサイクルできます